

ねん がつ にち
2020年7月25日

ねんかんだい しゅじつ
年間第17主日

きくち いざおだい しきょう せつきょう
菊地 功大司教 ミサ説教

「よきとも じんせい たから 宝だ」とか、「くなん じんせい たから 宝だ」とか、「であ じんせい たから 宝だ」とか、わたしたちの人生には、さまざまな「宝」がつきものです。

にんげんかんけい しゃかい たいけん おお たから だれ であ なか
人間関係だとか、社会での体験だとか、そういった多くの宝は、誰かとの出会いの中で、
じぶん じんせい ゆた え せんざい
自分の人生を豊かにしてくれる得がたい存在であります。

もちろん、しゅみ なに あつ
趣味で何かを集めているときなどに、そういったコレクションが「宝」となることもあるでしょうが、いずれにしろわたしたちが「宝」と言うときには、じっさい か へいてき
実際の貨幣的な富としてわたしたちをけいざいてき ゆた
経済的に豊かにしてくれる「宝」のことではなくて、か へいてき
貨幣的な価値でははか けい
計ることのできない豊かさをあた であ
与えてくれるものをさして、「宝」と呼んでいます。

マタイ福音は、ふくいん
「もち物をすっかり売り払って」でも、て い
手に入れたくなるような「宝」を記しています。さらには、もち物をすっかり売り払い て い
手に入れようとするほどの、「よい しんじゆ はなし する
良い真珠」の話を書いています。

すなわち、なに けいざいてき ふ か か ち あた
何か経済的な付加価値を与えてくれるような「宝」ではなくて、じぶん じんせい
自分の人生をけつていてき き
決定的に決めるような「宝」であります。じんせい
人生のすべてを賭けてでも手に入れたくなるような「宝」であります。

この話は、はなし
ともすれば、ひじょう り こてき ひび も はなし
非常に利己的な響きを持つ話でもあります。じぶん じんせい りえき
自分の人生の利益のために、かく も
隠し持つておこうとする宝の話のようにも聞こえます。

れつおう き
列王記には、おう つ
ダビデ王を継いだソロモンが、なにごと ねが よ
「何事でも願うが良い」とかみ い
神に言われたときに、じぶん
自分のためのさまざまな利益を求めることなく、たみ ただ さば ぜん あく ほんだん
「あなたの民を正しく裁き、善と悪を判断
することができるよう、この僕に聞き分ける心をお与えください」とねが
願うことで、かみ

からよしとされ、「知恵に満ちた賢明な心」を与えられたと、記されています。

神から、それこそ人生の最高の宝を与えようと言われたときに、ソロモンは自分の利益のためではなく、自分に託された神の民のための宝を求めた。ここに福音に記された、すべてをなげうってでも手に入れたくなる宝の意味が示されています。

自分の利益のためではなく、他者の利益となるために、宝を手に入れる。すなわちわたしたちは、社会の共通善に資するために、宝を求め続ける。わたしたちの宝とは、いったい何でしょうか。

昨年東京ドームでミサを捧げられた、教皇フランシスコの説教の言葉を思い起こします。

教皇はマタイ福音の6章33節の「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる」と言う言葉を引用した後に、次のように言われました。

「主は、食料や衣服といった必需品が大切でないとおっしゃっているのではありません。それよりも、わたしたちの日々の選択について振り返るよう招いておられるのです。何としてでも成功を、しかもいのちをかけてまで成功を追求することにとらわれ、孤立してしまわないようにです。この世での己の利益や利潤のみを追い求める世俗の姿勢と、個人の幸せを主張する利己主義は、実に巧妙にわたしたちを不幸にし、奴隷にします」

教皇フランシスコは、無関心のグローバル化という言葉を使って、現代社会に生きるわたしたちが、利己主義を強めながら、むなしいシャボン玉の中に閉じこもって、はかない夢を見ながら、他者への関心を示さなくなっていると、教皇就任直後から指摘を続けておられました。

ドームミサの説教で教皇は、「孤立し、閉ざされ、息ができずにいる「わたし」に抗するものは、分かち合い、祝い合い、交わる「わたしたち」、これしかありません」と指摘されました。

わたしたちは、^{しゃかい}社会という^{きょうどうたい}共同体の中で、^な孤立することなく、^{たが}互いの^{まじ}交わりの中で、^{きょうどうたいぜんたい}共同体全体の^{えき}益、^{きょうつうぜん}すなわち^し共通善に^も資するよう、^{たから}持っている^わ宝を^あ分かち^あ合わなくてはならない。

^{きょうこう}教皇ヨハネ・パウロ二世の^{にせい}「アジアの^{きょうかい}教会」に、^{つぎ}次のように^{しる}記されています。

「イエスに対する^{たい}教会の^{しんこう}信仰は、^わいただいた^あたまものであり、^{わかちあ}分かち合うべき^{たまもの}です。その^{しんこう}信仰こそ、^{きょうかい}教会が^さアジアに^だ差し出すことのできる^{さいだい}最大の^{おく}贈り物^{もの}なのです。イエス・キリストの^{しんり}真理を他の^{ひと}人々と^{わかちあ}分かち合うことは、^{しんこう}信仰の^あたまものを^{あた}与えられた^すすべての^{ひと}人にとって^{じゅうよう}重要な^{ぎむ}義務^{です} (10)」

^{しんこう}信仰は、わたしたちにとって^{たから}宝であることは^{まちが}間違がありません。そしてその^{たから}宝は、^{じぶん}自分の^{こころ}心に^ひ秘めて^{かく}隠しておくためではなく、^{じぶん}また^{すく}自分だけの^{かぎ}救いの^{かぎ}鍵でもなく、^{きょうつうぜん}共通善に^し資するように、^{おほ}多くの人と^{わかちあ}分かち合わなければなりません。わたしたちは、^う受けた^{しんこう}信仰を^{わかちあ}分かち合うために、^よキリストに^よ呼ばれています。

^{きょうこう}教皇フランシスコは、^{さくねん}昨年この^{ばしょ}場所で^{せいねん}青年たちと^{であ}出会ったとき、^のこう述べられました。

「あなたが^{そんざい}存在しているのは^{かみ}神のためで、それは^{まちが}間違ありません。ですが^{かみ}神はあなたに、^{たしや}他者のためにも^{そんざい}存在してほしいと^{のぞ}望んでおられます。神はあなたの中に、^{かみ}たくさん^{なか}の^{ししつ}資質、^{この}好み、^おたまもの、^おカリスマを^お置かれましたが、それらはあなたのためというよりも、^{たしや}他者のためのもの^{なの}です」

わたしたちの^{たから}宝である^{しんこう}信仰は、^{かみ}いのちは^{おく}神からの^{もの}贈り物であると^{おし}教えます。^{きょうかい}教会は、^{かみ}神が^{あい}愛を^こ込めて^{そうぞう}創造された^{すべ}すべての^{れいかい}いのちは、^{はじ}例外なく、^おその^{たいせつ}始めから^お終わりまで^{たいせつ}大切に^{され}され、^{まも}守られ、^{にんげん}その^{そんげん}人間の^{たも}尊厳が^{しゅちよう}保たれなくてはならないと^{しゅちよう}主張^{します}。すなわち、^{さいこう}いのちは^{たからもの}最高の^{たからもの}宝^物です。

その^{たからもの}宝^物である^{じぶん}いのちは、^{たしや}自分だけのものではなく、^{あた}他者のために^つ与え^つ尽くす^いいのち^でです。

あるようにと、^{きょうこう きょうちよう}教皇は強調されました。

^{さがみはら しょうがい}相模原の障害のある方^{かた しせつ}の施設で、^{めい ぞんげん}19名の尊厳あるいのちが^{ぼうりよくてき うば}暴力的に奪われてから^{にち}26日
で^{ねん}4年となります。^{さいこう たからもの}最高の宝物であるいのちを、^{たが あた つ ささ あ}互いに与え尽くし支え合うためではな
く、^{かち}価値がないとして^{ぼうりよくてき うば}暴力的に奪うことは許されることではありません。^{じけん しょうげき}事件の衝撃
が残っているにもかかわらず、^{のこ}いまでも、いのちの^{かち}価値の^{さ い}差異を^{きょうちよう}強調して^{せんべつ}選別するこ
とをよしとする^{こえ き}声が聞こえるのは、^{たいへんぞんねん}大変残念です。^{さいこう たからもの}最高の宝物であるいのちは、^{たが ささ}互いの支
え合いの中で、^{あ なか ぞんげん}尊厳のうちに^{まも}護られなくてはなりません。

「^{よ お}世の終わりまでいつもあなた方^{がた とも}と共にいる」と^{やくそく}約束された^{しゅ じしん}主ご自身が、わたしたちの
ためにそのいのちを^わ分かち^あ合い^{とも い}共に生き、^{ささ}支えてくださるように、その^{しゅ}主に^{したが}従うわたし
たちも、^{きょうだい しまい}兄弟姉妹との^{まじ}交わりの中で、^{なか}互いに^{たが ささ あ}支え合ういのちを^い生きていかななくてはなり
ません。

わたしたちの^{たから}宝は、^{じぶん}すべからく自分だけのものではなく、^{たしや わ あ}他者と分かち合うためにある。
^{たからもの}宝物である^{しんこう}信仰を^わ分かちあう。たまものであるいのちを^{とも い}共に生きる。^{たが たす あ おも}互いに助け合い、思
いやり、^{ふか}きずなを^{ゆた}深め、^い豊かないのちを^い生きることができるよう、^{つと}努めてまいりまし
よう。